

大切なライフラインを守るために必要な費用のいろいろ。

「いつも支払っている水道料金と下水道使用料は、一体どのようなことに使われているの？」
「無駄なく有効に使われているの？」そんな疑問を感じたことはありませんか。
上下水道事業にとって料金収入は、事業を安定して運営するために必要不可欠なものです。
今回は、平成22年度の決算状況をもとに、その料金の使い道をお知らせします。

水道や下水道は、道路や公園など不特定多数の人が利用する公共施設とは違い、上下水道施設が整備された地域の人のみで利用することができません。そのため、事業に必要なお金を、原則として税金ではなく

高松市水道事業決算状況

水道料金で成り立つ水道事業

平成22年度の収入は、夏の猛暑のため水道の使用量が増加したことなどにより前年度と比べて1.9%の増収となりました。一方、支出は、使用量の増加により香川県営水道から水を購入する費用などが増加し、前年度と比べ1.2%の増加となりました。



水道事業は、お客さまからの水道料金で運営しています。その料金は、下図のように香川県営水道からの水の購入費として使われるほか、職

員の給与と費、浄水場で水道水をつくるための費用、ご家庭まで水道水をお届けする配水管の維持管理費用などに使われています。
また、水道事業は、水道水をつくるための浄水施設や、お客さまにお

届けするための配水施設など、多くの施設を所有しています。そのため、長期にわたって資金が必要となることから、積立金や内部留保資金としての財源を確保しています。

貸借対照表 (平成22年3月31日) 塩江簡易水道事業を含む

貸借対照表 (平成22年3月31日) 塩江簡易水道事業を含む

損益計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日) 塩江簡易水道事業を含む

損益計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日) 塩江簡易水道事業を含む

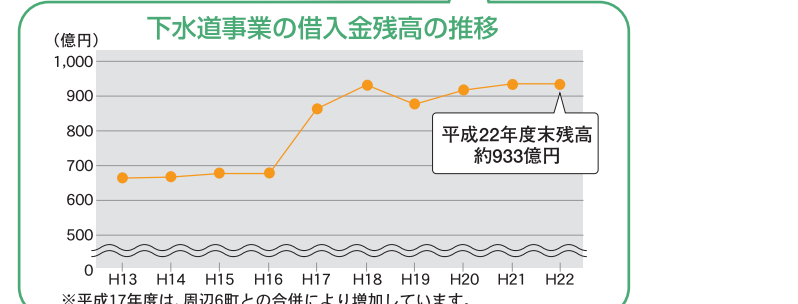
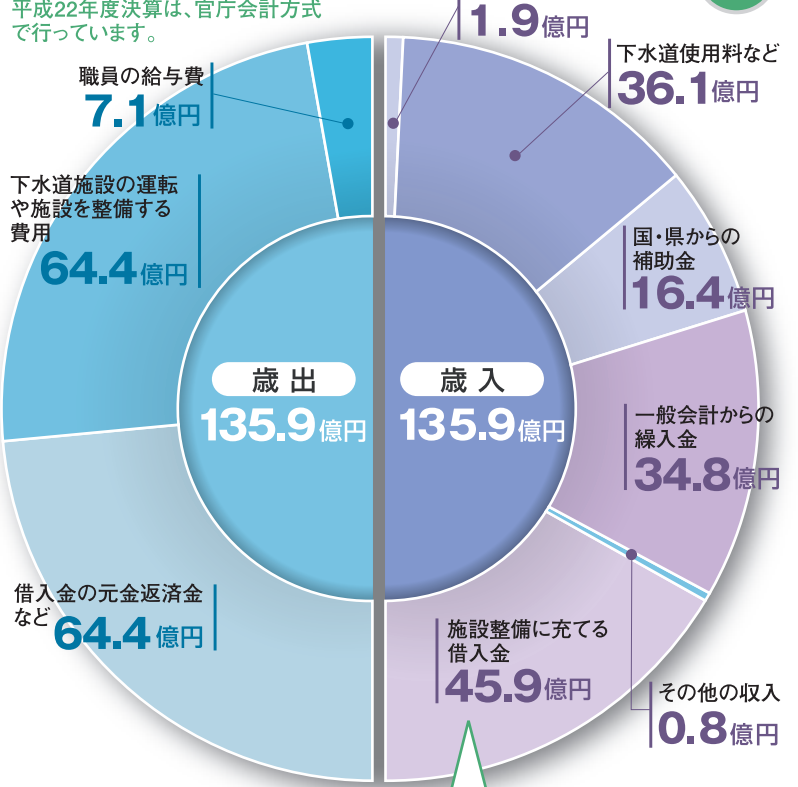
高松市下水道事業決算状況

下水道の大きな役割として、衛生的で快適な生活を送るために不可欠な「汚水対策」と、大雨から街を守る「浸水対策」があります。

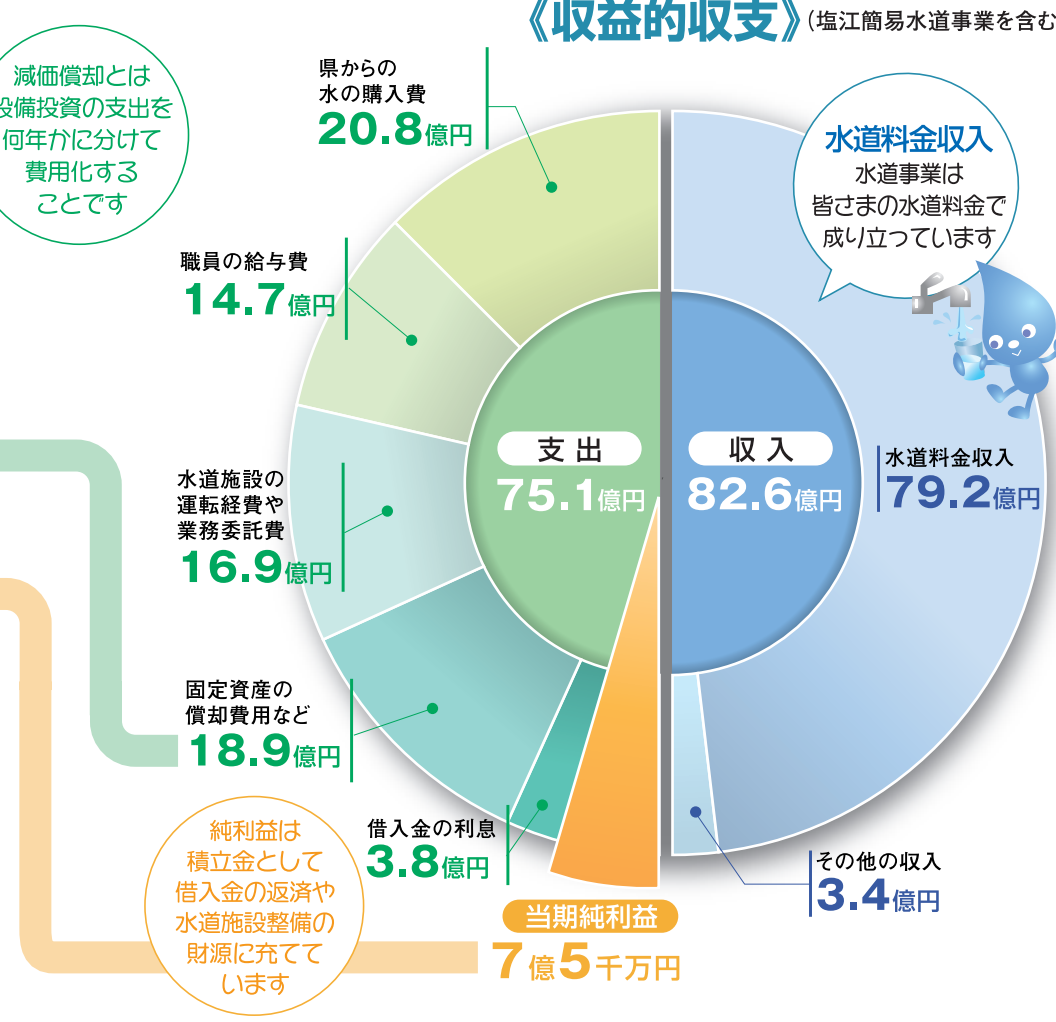
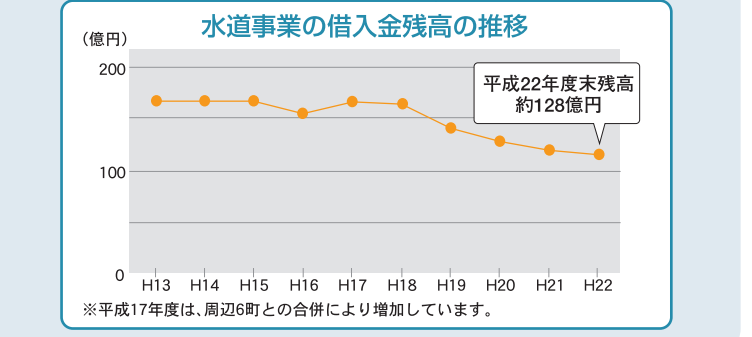
このうち、雨水を処理する「浸水対策」は、利益が広く市民に及ぶことから、その事業に必要なお金を税金(公費で賄う)とされています。一方、「汚水対策」は、水道事業と同様に利用する人の料金で賄うこととされていますが、高松市では、汚水の維持管理費が下水道使用料で賄えきれず、不足額を一般会計(公費)から繰入れているのが実情です。また、下水道施設の整備には、一度に多額の費用がかかるため、国などから資金を借り入れており、平成

22年度末で、約933億円の残高があります。高松市では、事業の経営状況や財政状態をより明らかにするために、特別会計であった下水道事業に平成23年度から企業会計方式を採用しました。それにより、水道事業と同じように、企業としての業績や財産の状況を把握し、公費と料金の費用負担の適正化に努めるなど、経営改善に取り組んでいきます。

《歳入・歳出状況》



《資本的収支～水道施設の整備とその財源～》



職員給与などの状況

上下水道局職員の給与は、市議会での審議を経て給与条などで定められています。市民の皆さまにその状況を知っていただくため、内容をお知らせします。

1 人件費などの状況(企業会計予算)

職員給与費とは人件費のうち一般職員に支給される給料、請手当をいいます。

2 職員の平均給料月額などの状況

3 職員の初任給の状況

4 職員手当の状況

5 職員数の適正化計画の数値目標と進捗状況

資本的収支からみる水道事業
水道事業の運営の基盤となる水道施設の整備・改修には、多額の費用がかかります。その施設整備・改修や、借入金の返済などの財源として確保するのが、水道料金から減価償却などで費用化した内部留保資金や純利益を積み立てた資金です。平成22年度は、浄水場の施設整備や改修を行い、未給水地区解消のための配水管布設工事、老朽配水管の

布設替工事などを実施しました。引き続き、安全で安心でおいしい水の安定供給に努めていきます。



上下水道局職員の給与は、市議会での審議を経て給与条などで定められています。市民の皆さまにその状況を知っていただくため、内容をお知らせします。